

～生徒の主体的な活動を通して、仲間づくり・

共生の素晴らしさを知り、社会の一員としての自覚を育てる。～

四日市市立南中学校

はじめに ～南中学校の概要～

(1) 学校の沿革

昭和22年4月15日創立。新築工事で、昭和36年3階建新校舎、昭和37年体育館、昭和38年管理棟落成、昭和48年にプールが竣工した。昭和52年3月1日創立30周年記念式典を開催。昭和60年4月1日に四日市市立内部中学校と2校に学校分離。昭和63年格技場落成。平成16年12月22日PFI方式による新校舎建設工事が開始、平成17年10月31日4階建新校舎、屋内運動場が落成、平成18年3月31日新プール、グラウンドが完成し、現在に至る。

(2) 本年61年目を迎えて、昨年度までの卒業生は19552名になる。現在の学級数は19学級(特別支援学級2を含む)、生徒数は、男子291名、女子300名の計591名。

(3) 校訓 気骨と優雅 創造と協働

教育目標 人間性豊かで 自主性創造力に富み 心身ともにたくましく 実践力のある生徒を育成する

学校づくりビジョン

めざす学校像

伝統と誇りのある 我が母校 南中学校

めざす生徒像

自ら学び考え判断し 問題を解決できる生徒

共に生き お互いに向上する努力ができる生徒

自己の未来を 自ら積極的に切り拓くことのできる生徒



(4) 研修テーマ 心を育む授業づくり

～自他ともに大切に作る心、互いに認め合う心を育む授業づくり～

総合学習第3学年テーマ『人と人とのつながりを考える』『平和な世界の実現に向けて』

『自らの進路をみつめて』

(5) 本校の修学旅行の目的地は、昭和61年(1987年)までは関東東京方面であったが、昭和62年(1988年)より関西西広島方面に変更し、昨年度に至っている。しかしながら、生徒・保護者・教師の話し合いの結果、平成18年より東京横浜方面に変更した。

2005年度の実践

1. ねらい

(1) 平和学習・・・世界唯一の被爆国である日本であることから、修学旅行で訪れるヒロシマでの学習を通して、戦争の悲惨さや恐ろしさについて考え、『戦争』は二度と繰り返してはならない、人権侵害であるにとらえることができる。また、『世界平和』とは何かを自分なりに考え、自分の身近な問題に目を向けながら『平和』な社会の大切さを感じることができる。



(2) 防災学習・・・東海・東南海大地震が危惧される昨今、自分たちの防災意識の向上は急務であり、阪神・淡路大震災での教訓を手本とし、防災とは何かを考え、復興への力強さを肌で感じることができる。

(3) なかま意識を育てる・・・修学旅行を通して、なかまとともに助け合い、協力し合いながら、なかまの大切さを感じることができる。また、学年議会や班別分散学習を通して、子どもたちが主体的に判断しながら活動を行い、集団行動のルールやマナーを守らなければいけない社会の一員として自覚を持つことができる。

2. 日程

5 / 3 1 7:00 アムスクエア前広場集合(四日市駅側)

のぞみ 43号

近鉄四日市駅 —— 名古屋駅 —— 広島駅 —— 広島平和学習・分散学習 ——
—— 広島港ディナークルーズ —— ホテルニューヒロデン

6 / 1 6:00 起床

のぞみ 6号

ホテル出発 —— 広島駅 —— 新神戸駅 —— 人と未来防災センター ——
—— 神戸分散学習 —— 天保山レストラン —— コスモタワー ——
—— ホテルモントレ大阪

6 / 2 7:00 起床

ホテル出発 —— ユニバーサルスタジオジャパン —— 香芝SA —— 上野DI ——
—— 近鉄四日市駅

3. ねらいを実現するための取り組み

(1) ヒロシマでの平和学習

- a 平和セレモニー（学年議会中心）に向けて、折り鶴献納・『南中学校平和への誓い』作成
- b 平和記念公園内記念碑めぐりに向けての学習（事前学習）
- c 平和記念公園・平和記念資料館の見学
- d 班別分散学習（本川小学校平和資料館・袋町小学校平和資料館・放射線影響研究所・旧日本銀行広島支店跡など）での聞き取り学習や見学

(2) 神戸での震災学習

- e 阪神・淡路大震災の震災に学ぶ学習（事前学習）
- f 人と未来防災センターで語り部さんの話を聞く・館内の見学
- g 班別分散学習（ボランティアガイドによる震災学習など）

(3) なかま作りを意識した活動

- h 事前に電車・バスの時間や運賃・経路を確認し、広島（1日目）・神戸・大阪（2日目）での班別分散学習
- i 広島港ディナークルーズ・ユニバーサルスタジオジャパンでの体験活動
- j 日常生活での学年議会や生活班を中心とした取り組み・学年議会を中心とした修学旅行のルール・マナーづくり

4. 生徒の取り組みの様子から

(1) ヒロシマでの平和学習

- a 平和セレモニーに向けて、事前に学年議会が中心になって学年全体に向けて「なぜ、折り鶴を献納するのか」について学年集会や学級で話をし、折り鶴づくりをみんなに協力してもらった。
- * みんなで、分担して頑張ったよ。同じクラスの子たちが、一生懸命折り鶴を折ってくれたよ。
- * 折り鶴をつなげる時、クラスの子に手伝ってもらってもいいかな。



- b 平和記念公園内記念碑めぐりに向けての学習（事前学習）では、セレモニーの行われる『原爆の子の像』について、どんな碑であるかを知らせた。また、本川橋西詰に建立されていた『韓国人原爆犠牲者慰霊碑』が、平成11年に公園内に移転されたことを通して、原爆の犠牲者は、日本人だけではなく、戦時中日本につれてこられていた中国・朝鮮の人たちも被爆したことを知らせた。



- * 私たちと同じ年齢ぐらいの子が、原爆にあった。もし、いまの自分だったらどうしていただろう。
- * 『韓国人原爆犠牲者慰霊碑』は、どういったいきさつで、公園内に移転されたのだろうか。その碑には、どんな思いが込められているのだろうか。

- c 平和記念公園・平和記念資料館の見学は、班別に見学した。事前学習を生かし、自分たちの調べたいテーマを中心にした学習の進め方をとった。



- * 平和資料館では、原爆で被爆したものが展示してあり、すごく生々しくてその悲惨さを強く感じました。
- * 平和記念公園にある『被爆したアオギリ』や『原爆の子の像』を見学した。私たちと同じような子どもたちが被爆して亡くなったかと思うと胸にじーんとくるものがあった。

- d 班別分散学習のテーマ別学習（本川小学校平和資料館・袋町小学校平和資料館・放射線影響研究所・旧日本銀行広島支店跡など）の中で、被爆当時の状況について話を聞かせてもらったり、昭和20年（1945年）8月6日の原爆投下の際、爆心地に最も近い学校として大きな被害を受けた当時のものが現存する建物などを見学した。

また、広電に乗り継ぎながら、広島県立美術館・広島城・広島市子ども文化科学館などの市内の名所を訪れ、班別分散学習を行った。



* 袋町小学校平和資料館で、館長さんのお話を聞かせてもらった。その当時被爆された方の消息を訪ねる名前などが書き記されているのを見せてもらった。混乱した状況の中で家族や親戚・友人を見つけるのはすごく困難なことだったと思う。

* 旧日本銀行広島支店跡の見学で、たくさんの折り鶴の展示を見ることができた。また、被爆があったときに止まったままになっている時計も見ることができた。このような大きい建物建物でさえ、金庫の中以外は被爆したということを教えてもらい、びっくりした。



* 広島城を見学した。昭和 20 年の原爆投下によって全壊した建物であるが、昭和 33 年に復元された。たくさんの方が訪れていて、憩いの場所なんだなあ~と思った。



南中学校平和への誓い

今の日本は、生活する上で、不自由もなく毎日が平和です。しかし、世界には日本が経験した恐ろしい戦争という歴史を無視するかのよう、いまだに核兵器を作って核実験をしている国があります。私たちは、唯一の被爆国・日本国民として、世界に核があり、核実験をしているという事実を許すことは出来ません。世界に核がある時点で世界は平和ではないと私たちは思います。世界の人々が恐怖に恐れ、おびえたりしてほしくないと思います。

世界中の人々が毎日笑っていて安心できることを平和といい、それを一刻も早く実現していかねばならないのです。

そこで私たちは、世界が平和になるために、自分たちに何ができるかを考えました。世界から核兵器がなくなることを私たちは望みますが、私たちがいくら願っても、戦争をなくす・核兵器をなくすなどの大きな問題は解決しません。なので、私たちは自分にできる活動をしていこうと考えました。そこで、私たちにできると考えたことは、私たちがひとりでも多くの人に私たちが学んで知った戦争のことを伝えること・世界平和について考えたこと・思ったことを話していくということです。「世界が平和になることはどれだけ大切か」ということを私たち全員が伝え、伝えた人がまた違う人に伝えながら、多くの人に伝われば、世界中に平和への思いが広がるかもしれません。実際に戦争を体験した人が自分の悲しくてつらい体験を話すのはとても辛いことなのに、そのつらさ以上に平和を願ってみんなに話していると思います。私たちもその人達から学んだことを絶対伝えていかねばなりません。

今回、修学旅行で平和学習をより深めるために、ヒロシマについて学んできました。被爆の「原点」である広島記念公園は、核兵器廃絶と世界の平和を願う「ヒロシマの心」の発信地です。2歳の時被爆し、10年後に白血病を発病して亡くなった佐々木貞子さん。その死に衝撃を受けた同級生たちが、「原爆で亡くなったすべての子どもたちのために慰霊碑をつくろう」と全国へ呼びかけ完成したのが、「原爆の子の像」であることも知りました。私たちは、ヒロシマのことを学び、生命を大切にして、差別や偏見を許すことのない生き方をしていくことをお互いに誓い合いたいと思います。そのためには、原水爆がもたらす悲惨な被害についてしっかりと学ぶ必要があると思います。それを学ぶために今回修学旅行では、少しでも被爆された方々の気持ちに近づきたいと思います。その様々な気持ちに私たち自身ができることで、そこから「平和」に対する強い気持ちが生まれてくると思います。その中で、「平和」という言葉の重み、大きさ、喜びを改めて実感することができると思います。

そして、私たちは、自分の生命があることで、仕事や自由に好きなことができる素晴らしさを実感し、誰の生命も同じように大切にしながら、これからの人生を歩んでいきます。

2005年5月31日 四日市市立南中学校三年生

セレモニー実行委員会

(2) 神戸での震災学習

e 修学旅行の目的地の一つである神戸も10年前に阪神・淡路大震災という大きな地震を経験している土地である。その神戸を訪れるにあたり、大震災を経験し、そこから復興してきた町

であるという意識を、事前学習を通して持たせたいと考えた。



* 神戸に圧死・焼死あわせて死者6400人にのぼる大震災があったことにびっくりした。電車や阪神高速道路の高架を横倒しにし、たくさんの建物を壊滅状態にした。まるで、戦時下におかれた緊急事態の状況で、こわかった。

* 地震の直後から、人々がパニックに陥ることなく、隣近所で助け合って瓦礫の下に残された人々を掘り出し、飲み水を確保し、乏しい食料をわけあってその夜を迎えたという事実に感動した。また、人々が自らの手で助け合い、その様子を見て、全国からボランティアが駆けつけたということを知り、人間のたくましさを感じた。

f 「人と未来防災センター」で語り部さんからの震災当時の様子やその思いを聞かせてもらい、館内の見学や体験ができ、このセンターにおいての学習が深みのあるものになった。

* 3Dを使った映像による学習は、すごく真に迫るものがあり怖かった。本当に震災が、起きたときにどうすればいいのかについて真剣に考えることができた。



* 六甲アイランドの歩道が、まるで川のようにどろどろになっているのにびっくりした。「液状化現象」という言葉も初めて聞いたが、こんな状態になったら、建物もひとたまりもないのだろうなとすごく感じた。

総合的な学習の時間（震災学習）授業事例

2005.5.10(火)

1. 主題

震災学習（～1.17阪神大震災が残したもの～）

2. 学習目標

- ・10年前の阪神淡路大震災のもたらした、自然災害（震災）の事実を知る。
- ・神戸について震災という観点での関心を高め、修学旅行での震災学習につなげていく。

（生徒の神戸見学予定に、“ボランティアガイドによる震災学習”を選択するように！）

下見に参加した先生のかなりお勧めです。

3. 題材設定の理由

・2004年10月24日（新潟県中越地震）、2004年12月26日（インドネシアスマトラ島沖地震）など、国内外を問わず地震による被害は、子どもの記憶にも新しいところである。また、修学旅行での目的地の一つである神戸も10年前に阪神淡路大震災という大きな地震を経験している土地である。その神戸を訪れるにあたり、大震災を経験し、そこから復興してきた街であるという認識をもって修学旅行に臨ませたいと考える。そして、修学旅行においては、実際に自分自身の肌で神戸の復興を感じさせたいと考え、この題材を設定した。復興にあたっては、多くのボランティアなどが活躍したことが報道されていたが、時間的な都合もあり今回の事前学習ではあまり触れることができないが、是非、触れていただき、人の姿から学ぶという視点も大切にしたい。

また、「人と防災未来センター」を訪れ、震災についての学習を行う。そこでは、震災経験者からその時の様子や思いの聞き取り学習も予定している。このセンターにおける学習が深みのあるものになるようにつなげていきたい。さらに、この三重県においても東海地震という言葉聞いて久しくなっている。

そもそも東海地震とは・・・

静岡県西部・駿河湾一帯を震源とするプレート型地震。マグニチュード8クラスの巨大地震で、神奈川県から愛知県にかけての広い範囲で強い揺れが起こり、津波での大きな被害も起きると想定されています。他にも、東南海、南海、合わせて3つの地震を地震3兄弟とも言われています。これら3つの地震は下記の図のように、百数十年のサイクルで起こっているようにも考えられます。その中で東海地震だけが、百五十年近く経ってもまだ起きていないのです。

このことが、生徒自らの防災意識の向上につながればと考える。

4. 指導について

・震災当時の神戸の写真を用いて、生徒の視覚に地震による被害というものを訴えていきたい。現時点では、生徒の震災による被害のイメージを膨らますことに重点を置いている。

しかし、この10年間での復興への力・それを支えた人々の力・震災を乗り越えてきた人々に力などを修学旅行を通して感じさせていくよう指導していきたい。また、現在の神戸は10年前に震災による被害があったとは思えないくらい復興してきているが、何気なく通り過ぎるのではなく、ボランティアガイドとともに神戸の街を巡ることで、今なお残る震災の爪痕、それにまつわるエピソードを肌で感じさせていきたい。

5. 指導の流れ

5月10日(火)3限

- ・10年前の阪神淡路大震災のもたらした、自然災害(震災)の事実を知る。

6月 1日(水)修学旅行当日

- ・人と防災未来センターでの震災学習
- ・ボランティアガイドによる震災学習

6. 本時の指導

時間	活動内容	教師の働きかけ
30分	先生の話	<p>「1月17日って何の日か知ってますか？」</p> <p>阪神大震災</p> <p>「何時ごろ地震が起きましたか？」</p> <p>午前5時46分</p> <p>「阪神大震災は君たちが何歳の頃起きたか知っていますか？」</p> <p>1995年、平成7年、</p> <p>今の君たち(3年生)が5歳になる年</p> <p>自分自身と大震災とのつながりを感じさせる。</p> <p>《災害写真プリント配布》</p> <p>それぞれの写真を元に、語る。</p> <p>大震災関係データより、地震の概要を伝える。</p> <p>「阪神大震災の後、神戸に住んでいる人たちはどんなことで困っていたのでしょうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケガをして自由に動けなかった。 ・住む家がなかった。 ・食料が十分にいきわたらなかった。 ・お風呂に入れなかった。 ・トイレが困った。 ・学校、会社へ行けなかった。 ・収入がなかった。 ・精神的なストレスがあった。 など

10分	ボランティアガイドへの誘い	「今の神戸はこの写真で見たような光景はほとんど残っていません。都会で、センスあふれる街になっています。けれども、ほんのわずかな所にその跡が残っています。それを分かりやすく教えてくれたり、その時の災害状況を教えてくれるのが、ボランティアガイドとの被災跡めぐりです。残念ながら、人数の制約があるので、各クラス2～3班しか参加することはできません。明日の神戸分散学習計画までに班でどうするか考えましょう。」
残り	広島分散の確認	

* 神戸班別分散学習では、南京町・ベイエリア・北野周辺を班別に行程を計画し散策した。その中で、6班42名がボランティアガイドによる震災学習に参加した。現在の神戸は10年前に震災による被害があったとは思えないくらい復興してきているが、何気なく通り過ぎるのではなく、ボランティアガイドとともに神戸の街を巡ることで、今なお残る震災の爪痕、それにまつわるエピソードを肌で感じさせることをねらい学習内容として設定した。

* 今の神戸から事前学習やセンターで学習したような光景はほとんど残っていません。けれども、ほんのわずかな所にその跡が残っていた。それをわかりやすく教えてもらったり、そのときの状況を教えてもらったので、ボランティアガイドさんとの被災地巡りに参加できてよかった。いい勉強になったと思う。

(3) なかま作りを意識した活動

h 修学旅行までに何度も教師側のチェックを入れながら、広島・神戸班別分散学習の行程表を完成した。事前に電車・バスの時間や運賃・経路を調べ学習しながら、自分たちの行程を確認した。1日目の広島市内分散学習では、平和記念公園・平和記念資料館の見学の後、広電を使って市内散策をした。そして、17:00～17:30の間に市電広島港駅前広場に集合した。

また、2日目の神戸での「人と未来防災センター」の見学の後、阪神電鉄本線・JR東海道本線(神戸線)・シティーloopを利用して神戸市内分散学習を行った。市内散策後、それぞれの班が事前に計画した行程一覧表に従って、JR東海道本線(神戸線)・JR大阪環状線内回り・大阪市営地下鉄中央線を乗り継ぎ、夕食会場である大阪港駅・天保山マーケットプレースに17:15～17:45の間に集合した。

* 1日目の市電広島港駅前広場での集合の時には、ディナークルーズの搭乗時刻が決められていたため、きちんと時間内に集合できるかどうか心配されたが、特に大きな問題もなかった。班長が中心となり、多少の時間の変更があったようであるが、班別分散学習に取り組めた様子だった。



* 2日目の神戸市内分散学習では、チェックポイントでのチェックが分散の早い時間帯に行われたこととチェックポイントが最後の駅チェックとの2カ所のチェックポイントであったため、分散学習時間内での生徒たちの行動面についての心配が予想された。また、大阪駅での乗り継ぎなどラッシュの時間帯であり、大半の生徒達にとっても初めての経験になることが予想されたため、教師側の対応も細かな配慮が必要であった。しかし、2,3の班だけ多少の時間の遅れや駅チェックもれがあっただけで、特に大きな問題もなく、元気な様子で集合できた。

集合したときの生徒達の様子を見ていると、「自分たちの力でやり遂げることができた」という充実感があった。



i 広島港ディナークルーズでは、食事はバイキング形式で、きまりを守りながら自分たちの仲良しのなかまとともに楽しく過ごす自由な時間がとれた様子だった。また、ユニバーサルスタジオジャパンでは、学年の中でグループを作り、約束事を守りながら楽しいグループ行動ができた様子だった。



修学旅行のルール＆マナー

<持ち物・集合時>

- * 持ってきたら没収されると思って下さい。
- * 時間を守る
- * 不必要な物は持っていかない。
- * 集合時は素早く並び、指示に従い点呼をうける。



<乗り物>

- * マナーを守る。
- * 車内をむやみに歩き回らない。
- * 一般の方に迷惑をかけない。
- * 老人・体の不自由な方がいたら席をゆずる。
- * 車内ではゴミを出さない。
- * 新幹線・バスの中だけでのみお菓子を食べてもよい。

<班分散・見学时>

- * 班で行動する。
- * 自分勝手な行動をしない。
- * 一般の方に迷惑をかけない。
- * 常識をわきまえた行動をする。
- * 次の計画を考えたよい判断をしましょう。
- * 気持ちのよいあいさつをしよう。

<ホテル>

- * ロビーで騒がない。
- * 隣や下の部屋の人に話し声や足音等で迷惑をかけない。
- * 消灯時には静かにする。
- * 次の日のためにしっかり体を休めよう。



班長会より

<スローガン>

- * 笑いの絶えない修学旅行にしよう。

<仕事内容>

- * 班をまとめる（リードする）
- * 点呼と整列
- * 連絡を必ず伝える
- * 注意する。

<守ってほしいこと>

- * 点呼がかかったら・・・早く集合して、整列して下さい。
- * 勝手な行動をしないで下さい。
- * 時間を守って行動して下さい。
- * 班長に協力して下さい。

j 日常生活では、学年議会が中心となって学年目標を決めたり、学校生活におけるルール・マナーづくりを決めたりするなど学年の中心を担う役割を果たしてきました。また、生活班では、日常生活を行う上で様々な係活動を分担したりしながら進めています。それらの毎日の子どもたちの活動を大切にしながら、その延長上に修学旅行の取り組みをとらえ、学年議会を中心とした修学旅行のルール・マナーづくりをすすめてきました。

また、修学旅行の出発式・解散式・セレモニー・集合点呼について学年議会の生徒達が中心となって進めることができた。また班別分散行動の時の中心となる班長会も、班の様子や報告や反省点、連絡伝達など全体的にきちんと進めることができた。

5. 修学旅行の取り組みの振り返りから

(1) 学年集団としての課題とその課題の克服にむけて

問題行動・課題を抱える生徒が多く、ゆえに他の生徒に我慢をさせることが多かった。

勉強はもちろん、様々な体験を盛り込み、楽しい思い出の残る修学旅行とする。

時間感覚・道徳・マナーに欠ける生徒が多く、機転を利かせた判断ができない。

調べ学習をすることや社会ルールを学ぶよい機会とし、一人ひとりが社会生活の厳しさにふれ、自己判断をすることの大切さを知る。

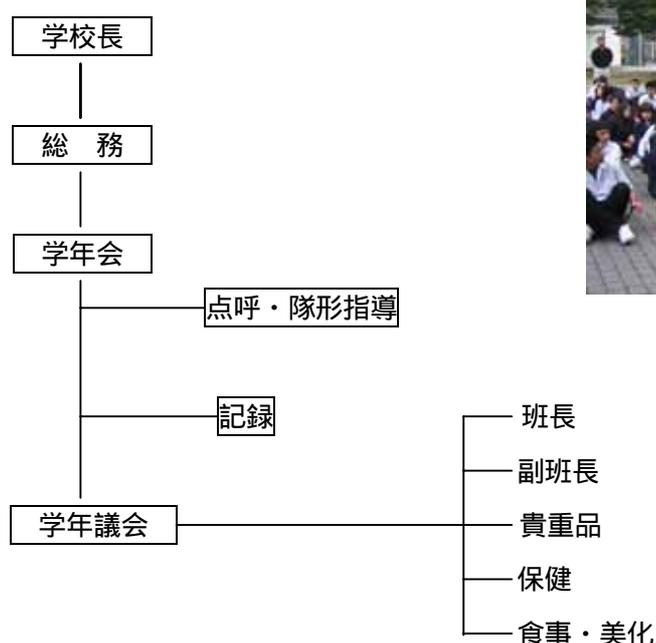
保護者の関係で集金未納の生徒があり、参加できない可能性のある生徒が多い。

担任をはじめ学年として何度も家庭訪問等連絡を取りながら、全員参加を目指す。

問題行動をとる可能性の生徒が多い。

「社会は厳しい」ということを身でもって体験できるよう、適切な指導をしていく。

(2) 組織について



それぞれの係長
は学年議会のメ
ンバーで行う。

(3) 班活動について

- | | |
|------------|--|
| ・班長（生活）1名 | 班のまとめ役。集合時の点呼。
班長会での連絡事項を班員に報告 |
| ・副班長（学習）1名 | 班別学習時中心になる。地図・記録も担当 |
| ・貴重品1名 | カメラ、時計を持ってくる。
ホテルのチェックインアウト時の貴重品管理 |
| ・保健1名 | 旅行中の班員の健康管理。健康チェック |
| ・食事・美化1～2名 | 食事場所での指示、テーブル拭き
1日目、新幹線内食事後のゴミ回収。
バス・ホテル内の掃除の中心となって指示出す。 |

* 全て生活班で活動する。

(4) 修学旅行の成果と課題について

a 事前までに

* 修学旅行の行程計画・指導計画について

- ・生徒には楽しめる行程であった。
- ・安全面はよく配慮できた。
(地理的・時間的)
- ・食事を全員でとらせたのはよかった。



* 組織・運営について

- ・担当の教師への負担が大きかった。
- ・きちんと役割分担をし、互いに連携をとる必要があった。

* 子どもたちの活動・分担について

- ・それぞれの係長は学年議会のメンバーで、生活班を使って係分担を行えたのでよかった。
- ・班別分散学習のテーマ別学習については、事前学習がほとんどできなかった。しかし、それぞれの訪問先では、しっかりとメモをとるなど学習できた。
- ・班別分散学習の行程表の作成に時間がかかりすぎた。

b 旅行中

* 教師の動き

- ・学校長・総務を中心によく動けた。

* 生徒の動き

- ・集合時間やホテルのマナーなど良好であった。
- ・事前に作成した行程表を意識しながら、班でまとまって分散学習に取り組めた様子だった。
- ・障害児学級在籍の生徒達も他の生徒達と同じように行動し、よく頑張れた。
- ・行動の面で心配な生徒や体調の悪い生徒など数名いたが、ルールを守り、班のなかまの協力もあり、3日間通した集団行動をすることができた。



c 来年度に向けてのまとめ

* 成果

- ・来年度以降修学旅行の行き先が、東京・横浜方面に変更になるが、引き続き平和学習に取り組んでいけるような行程を取り入れてほしい。
- ・修学旅行での活動を通して、全体的に前向きな姿勢が出せるようになった。

* 課題

- ・旅行会社との綿密な連携をとる必要がある。
- ・参加体験型の内容も徐々に考えていく時期に来ていると思われる。
- ・来年度の修学旅行では、東京・横浜方面に行き先が変わるため、平和学習をどのように位置付けていくか検討する必要がある。

d 生徒たちの感想から

～修学旅行の楽しかった思い出は？～

- ・ユニバーサルスタジオに行って、乗り物にたくさん乗ったり、いろいろなものを食べたり、おみやげを買ったり、・・・修学旅行で一番楽しかった。
- ・ユニバーサルスタジオで写真をいっぱい撮った事や乗り物に乗った事が楽しかった。
- ・ユニバーサルスタジオで、グループで同じ格好をして行動した事と段取りよく行動できた事。
- ・ユニバーサルスタジオで、仲良しの友達とまわることができておもしろかった。
- ・ホテルとかで、時間はなかったけど友達と一緒に修学旅行というかんじだった。
- ・コスモタワーは、最初暇かなと思ったけど、登っていたらすごく楽しくてあと1時間そこに居たくなった。
- ・班別分散学習。初めて自分たちで電車に乗って、班で行動して、自分たちが行きたい場所に行くのがよかった。
- ・ユニバーサルスタジオで、初めてジェットコースターの乗ったことやホテルで話したりして、なかまづくりができた。
- ・ユニバーサルスタジオで、グループ行動をする時に友達と意見が合ったり、合わなかったりしているいろいろあったけど、お客さんが少なくてたくさん乗り物に乗れて楽しかった。
- ・友達と楽しく過ごせたこと。自己中心的な行動をとらずに過ごせた。
- ・班別分散学習でその土地の名物を食べるのができたのが、よかった。町の様子を見ることができたことも思い出に残っている。



～旅行中、頑張ったこと～

- ・班やクラスのみならず協力することができた。
- ・班別分散学習で、何時にここに到着してとか、何時までに行かなければいけないとか、協力しながら余裕を持って行動できた。
- ・集合時間を守るなど決まりごとはきちんと守った。
- ・並んだらすぐに静かにできて、周りの人にも注意することができた。駅や班別分散学習で交通のマナーや社会のマナーに気をつけて歩くことができたし、気付けばすぐに注意できた。それと、わからないことを町の人に聞けるようになった。
- ・班のメンバーをきちんとまとめられるように頑張った。どの電車に乗ったらいいかを考えながら行動したので、迷子にはならなかった。
- ・班別分散学習で足が痛かったけど、長い距離を痛みに耐えて歩いたこと。

- ・ 班別分散のとき、電車の切符を買うときや目的地を探すとき、いつもだったら、他の人にまかせていたけど、今回の修学旅行では自分から行動できた。
- ・ 班の人と前より仲良くなれた。その他の人たちとも仲良くなれた。
- ・ 先生や室長の子が前に立って話している時は、ちゃんと話を聞くことができ、友達としゃべらないようにできた。部屋長の仕事を自分なりにできたと思う。
- ・ 早く起きて、時間を守って行動できた。
- ・ 係の仕事をしっかりできて、班の人のことを考えることができた。
- ・ 部屋長ということを通して、人に気を配れるようになった。
- ・ 点呼の時、班長や室長が点呼しやすいように早く並んだり、服装をこまめに整えたりできるようになったところ。
- ・ 服装がきちんと直せるようになった。
- ・ 室長として、自分から進んで何回も点呼をとることができた。

～自分自身の反省ポイント～

- ・ 班別分散学習の時に、初めの場所で少しゆっくりしすぎた。時間に少しルーズだった。
- ・ 消灯時間を守れなかった。ホテルの部屋をきれいにし、出て行けなかった。
- ・ もっと自分の意見とか言えればよかったかなと思いました。
- ・ 一般客と一緒に食事の時、迷惑をかけてしまったと思う。
- ・ 自分勝手やったと思うから、人のことをちゃんと考えることをもっとできなければよかったと思います。
- ・ 班別分散学習の時、広がって歩いたことと電車に乗っているとき、話をしてしまったこと。
- ・ 周りの人にもっと気を配ればよかった。
- ・ 駅で、迷子になって班の人に迷惑をかけた。
- ・ ユニバーサルスタジオの集合で5分前行動ができなかったこと。
- ・ 部屋長会に遅れてしまったこと。ホテルに忘れ物をしてしまった。
- ・ 駅などでは、班の人たちについて行っただけなので、自分でどの駅に行かなくてはならないか、次は～駅で降りなければいけないなど、自分で考えて行動があまりできなかった。
- ・ 班員の一人がはぐれてしまって、もっと周りを見て行動しなくちゃいけないと思った。
- ・ 班別分散学習の時、確認の電話を入れ忘れた。ちゃんとしなければいけないのに、とても反省した。

～あなたの周りで頑張っていた人～

- ・ 室長さん・・・点呼などいろいろな場所で頑張ってくれた。
- ・ 班長さん・・・班全員を引っ張ってくれた。
- ・ 部屋長さん・・・伝えなきゃいけない大事なことをちゃんと伝えてくれた。

(5) 緊急時の対応について

修学旅行中の問題行動への対応について(教師用)

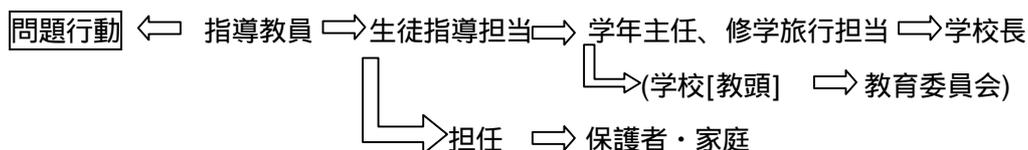
基本方針

全ての生徒を無事に送り届ける。

集団行動を著しく乱す行動や触法行為は断固許さない姿勢。

公共の場でのルールやマナーを意識させる。

連絡・指導体制 問題行動は生徒指導担当に連絡。



具体的な対応

< 不要物を所持していた場合 >

- ・持ち物検査等で、事前指導での指示の徹底を行い、不要物を限りなく『0』に近づける。
- ・ベースは、学校教育の一環であること、観光旅行とは違うことを考えさせる。
- ・旅行中の不要物の所持に対しては、その場で没収。(携帯電話等)
- ・没収したのに対しては、旅行中は返さない。事後指導の中で、厳重注意をし、本人返却・保護者返却(家庭訪問も含めて)をする。

< 触法行為・集団行動を著しく乱す行為があった場合 >

- ・できる限り複数での対応 ・指導中は次の活動への参加を停止する。
- ・現場発見教師・担任・生徒指導・学年代表・学校長と連絡を取り合い、今後の方針について協議する。必ず保護者への連絡。
- ・他校生・一般人とのトラブルは迅速に対応。生徒指導・学校長と連絡を取り、生徒指導が窓口となって他校との連絡を取り合う。

< 消灯後の部屋移動があった場合 >

- ・一斉巡回で、各部屋の様子を細かく確認する。
- ・最終点呼で、必ず生徒が自分の部屋にいるかどうか確認する。
- ・複数の教職員で指導にあたり、該当生徒が多数いた場合、一ヶ所に集めて指導する。
(現場発見教師+担任+生徒指導 学年主任、修学旅行担当 学校長)
- ・ドアを開けない場合、粘り強く指導し、以降の活動への参加を見合わせる。

その他

- ・服装・靴・頭髮・化粧など心配な生徒は、家庭訪問をして本人・保護者へ再確認を取る。
できる限り、当日の朝、集合場所まで送ってもらう。
- ・当日の朝は、学校と同じく服装を正させ、装飾物も外し、預かる。
- ・生徒指導グッズを準備していく。

6. 「平和学習」事前・事後指導の概要資料

(1) 実施内容

修学旅行を通してのなかまづくり

平和学習ガイダンス

平和学習 ・ ヒロシマの原子爆弾投下について (事前学習)

・ アジアの国々にルーツを持つ人々について (事前学習)

* 総合的な学習の時間と各教科・道徳・学活との連携をとる。

(2) 実施方法

修学旅行までに平和学習のガイダンスを行った後、『にんげんをかえせ』のビデオを視聴し、修学旅行で訪れる「ヒロシマ」に今から60年前に何が・なぜ起こったかについて知る。また、「アジアの国々にルーツをもつ人々」について知り、そこからもっと学びたいことや疑問に思ったことに重点をおきながら学習を深める。

a 太平洋戦争勃発の歴史的背景を知る。(社会科的要素)

戦争がなぜ起こったか、「ヒロシマ」に原子爆弾が投下されたわけ

b 戦時中の人々の心情に迫る。(国語・英語科的要素)

「ヒロシマ」原爆投下時の人々の姿、想い。

c 核爆弾(原子爆弾)について知る。(理科的要素)

なぜ、核爆弾がつくられたのか。核爆弾の威力。

d アジアの国々にルーツを持つ人々について知る。(総合的な学習)

戦時中、なぜ、朝鮮半島や中国の人々が日本にいたのか。

(3) 実施過程

4月 平和学習ガイダンス ヒロシマの想い「にんげんをかえせ」

平和学習 ヒロシマから学ぼう「広島平和記念資料館について」

ヒロシマは語る「ヒロシマ」碑めぐり

5月 アジアの国々にルーツを持つ人々について(事前学習)

震災学習 阪神・淡路大震災について・テーマ別学習について(事前学習)

6月~7月 ヒロシマ平和学習のまとめ「修学旅行・壁新聞づくり」

8月 ヒロシマ平和学習のまとめ「修学旅行・壁新聞づくり」

戦後60年を迎える今を生きる私たち(夏休みの宿題)

7. 2学期以降の平和・人権学習の取り組み

(1) テーマ 「平和な世界の実現に向けて」

(2) 目標

- a 日本と朝鮮の歴史をふりかえることによって、在日韓国・朝鮮の人たちについての理解を深める。
- b 日本の中で、在日韓国・朝鮮の人たちがどのような思いで生活しているのかを知り、同時に差別の実態を明らかにし、自分たちの問題としてとらえられるようになる。
- c 学習したことをもとに、意見を出し合い、日本と朝鮮の友好的な関係を築きあげるには、今何が大切なのかについて考える。

(3) 実施内容

- a 平和学習・国際理解ガイダンス 「オモニの贈り物」朗読
「なぜ64万人もの韓国・朝鮮の人たちが多く住んでいるのか。」について知る。
- * 朗読『オモニの贈り物』の学習の後、学年通信を使って、学習した内容を生徒に返しなが、学習を進めていきました。その学年通信の紹介をします。

～総合的な学習の感想を一部紹介します！～

「平和な世界の実現に向けて」というテーマで、この2学期は、日本に住む多くの韓国・朝鮮の人たちについて学んで行きます。過去の歴史・そして今を見つめながら、これからの私たちが、日本と朝鮮との友好関係をどう築き上げていくのかについて、みんなで考えていきたいと思ひます。ここでは、朗読『オモニの贈り物』の感想を紹ひします。

- ・日本人は、日本に落とされた原爆に対して怒ったり憎んだりするけれど、日本に連れてこられた韓国・朝鮮の人たちも、多くの人がある被害にあい、苦しんだ事実を知ってほしい・考えてほしい・覚えていてほしいのではないかと思ひます。
- ・「民族によって人の優劣があるわけではなく、貧富によつてもその優劣があるわけではない。みんな同じ地球に生きる仲間。」という文が印象に残った。
これから先、このことについて私達は考えていかないといけなひと思ひう。

- b 日本に住む朝鮮半島にルーツをもつ人たちの歴史・文化を知る。
- * 朝鮮半島にルーツをもつ人たちの思いや今おかれてる状況について知り、今の在日韓国朝鮮人差別の問題について考える。

c 朝鮮半島にルーツをもつ人たちの願いを知る。(聞き取り学習)

* 聞き取り学習の後、学年通信を使って、学習した内容を生徒に返しなが、学習を進めていきました。その学年通信の紹介をします。

～総合的な学習の聞き取り学習を終えて～

1 学期の平和学習に引き続き、2 学期は「平和な世界の実現に向けて」というテーマで、総合的な学習の時間を使い、日本に住む多くの在日韓国・朝鮮の人たちについて学んできました。

11月15日の5・6限目には、在日2世の梁 景子(ヤン キョンジャ)さんに来て頂き、韓国の伝統的な楽器であるチャンゴなどを演奏しながら、生い立ちを含めたいろいろなお話を聞かせてもらいました。みんなの印象に残ったことや感想の一部を紹介したいと思います。

- ・まだ日本は外国人に対してたくさんの制限を設けているという事実が、印象に残った。
「なぜ、制限されるのか。」ヤンさんの、そして日本に住む外国人の本当の思いを知り、その一言一言がとても大きく心に響いた。今日ヤンさんの話を聞くことができ、本当によかったと思う。
- ・私には、悩んで悩んで梁さんが本名で生きることを決めたときの気持ちも、その悩む気持ちも、同じように分かることはできません。しかし、梁さんがそう決心した後、こうやって私たちにその話をして下さることで、私たちも少しかもしれませんが、梁さんが悩んだように、他の在日の方々も悩んでいるのだということを知ることができ、勉強になりました。外国人登録やその他の制度について、やはり間違っていると感じるとともに、在日の子どもたちが大人になったとき、そんな制度がなくなっているように私たちが変えていけるようにしなければならぬと感じました。
- ・印象に残ったことは、在日の人たちは、日本で生まれ、日本で育ち、日本人と全く変わらず生きているのに、外国人扱いであるということや再入国許可の詳しい実情などを聞いて考えさせられた。在日の人にも日本人と平等な権利を与えるべきだと強く思う。
たくさんの人にヤンさんの話を聞いてもらいたい。
演奏のときの音楽と踊りがすごくきれいで、はじめはゆっくりで、最後の方は、チャンゴの迫力に圧倒されてしまいました。
チマチョゴリもすごくきれいで、鮮やかな色が印象に残っています。

d 3年生 総合的な学習学年発表大会 学習のまとめ

* 学年通信を使って、学習した内容を生徒に返しなが、学習を進めていきました。その学年通信の紹介をします。

～総合的な学習学年発表大会を終えて～

総合的な学習学年発表大会で、同じ学年の代表者の作文発表を聴くことで、まわりの人たちの考えと自分の考えを比較し、「人権意識」を高めるきっかけにできたのではないかと思います。学年発表大会で感じたみなさんの感想の一部を紹介したいと思います。

～2組のAさんの発表「考えたこと」について～

- ・だからきっと、その時の「差別はいけない」という気持ちを大人になるにつれて忘れていくんだなと思いました。だから私は、今の気持ちを忘れずに、自分のできることをしていきたいなって話を聞いて思いました。

～3組のBさんの発表「3年間の人権学習」について～

- ・「障害」者の人は、不幸・かわいそうではなくただ不便なだけで、うちらが助けていけば障害者の人が不便って感じる事がなくなると思った。
- ・人っていうのは無意識に線を引いて、そこから下の人には差別するって事をしているんやなと思った。自分ももしかしたら、そうやってしてしまったかもしれないと思う。

～6組のCさんの発表「かわいそう」について～

- ・Cさんの言うとおり、差別をなくすには「かわいそう。」という前に一緒になくしていこうという気持ちが一番大切だと思いました。
- ・「かわいそう」の一言で、頑張っている人の気力をうばいってしまいそうな気がする。だから、「かわいそう」って言う時は、相手のことを考えたいと思います。

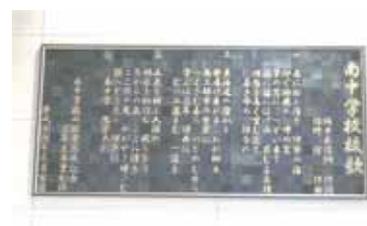
8. 2学期以降の生徒たちの変容



3年生での修学旅行での、ヒロシマ・神戸での班別分散学習や平和学習・震災学習を通して、これから生徒たちが何を大切に生きていかなければならないのかを学ぶことができました。

そのことが、2学期の主な行事である四日市ドームでの全力を尽くして頑張った体育祭、それぞれのクラスが、優勝を目指して取り組んだ文化祭といった大切な思い出づくりにつながっていきました。

11月の新校舎移動においては、後片付けや引越しなど全校生徒で取り組み、とても大変な作業でしたが、旧校舎への感謝の思いを込めながら、新校舎への期待と希望にわくわくした様子でした取り組むことができました。





3月には、新校舎卒業の第1期生としての記念植樹が行われました。学年議会の生徒たちが中心になって、雨の中作業してくれました。また、卒業式の前日には、美術の時間や学活の時間を利用して作成した『木彫版』披露があり、一人ひとりが一生懸命彫刻刀で彫ったものが素晴らしい記念板になりました。

こうした中、感動すべき卒業式を迎えることができたのです。

終わりに ~南中学校の展望~

修学旅行の目的は、ただの「物見遊山」ではなく、総合的な学習や道徳、あるいは、学級活動や日々の指導の集大成であり、その実践の場であるととらえている。

「ワイワイガヤガヤ騒ぐこと」だけの面白い旅行でなく、「人と人とのつながりの大切さや素晴らしいさ」を感じたり、日常の授業で学習している「平和学習」「防災学習」等を、実際にその場所にでかけ、体験することが大切であるとする。

また、現在社会で広く呼びかけられている様々な出来事について、現地で聞き取りや体験学習をしながら、「将来どのように生きるか」という大きな人生の課題を考え、見るような機会を与えることができる場にしたいと思っている。

そのような修学旅行の意義から考えると、修学旅行当日の3日間はすごく大切であるが、それ以上に、その前後に行われる事前・事後指導がとても重要であると思われた。

事前指導では、校長である私が自ら学年集会や指導の場に出向き、旅行の意義を説明したり、事後指導では旅行中の生徒の活動の様子を評価し、今後の日常生活やあるべき姿を指導した。

この旅行に関して自分なりの感想や反省を考えてみた。

事前指導では平和学習についてビデオ教材や資料を使って広島を訪れる意義を十分理解し、防災に対する心構えも少しずつ芽生えたように思う。さらに、「人と未来防災センター」において、実際の激震の様子にふれることができ、素晴らしい防災学習になったと思う。このことが、班別分散学習の計画も混乱なく、進行することができた大きな要因につながっている。

見学地については平和公園・原爆ドーム・資料館等、実際に見ることによって、より一層、平和への願いが強くなったように、また、防災未来センターで、様々な体験をすることにより、防災の心構えや復興への強い意志、みんなで助け合うことの意義や大切さを学んだように思う。

宿泊場所については、ホテル形式で、部屋から部屋への電話を使って夜遅くまで話していたり、外から部屋の鍵が開けられないことから、深夜に他の部屋に抜け出したりすることがあった。

生徒の安全健康管理上、何か方策はないかと考える。

他に、エアコンの故障など少々のトラブルはあったが、大きなことは無かった。

交通機関については、名古屋での新幹線待機場所が、遠く離れたところだったので、生徒指導上かなり不便であった。一般客との混乗の車両があり、かなり指導が大変であった。

また、広島での路面電車移動は生徒の乗り降りに手間取り、かなり厳しい状況であった。

安全・健康面については、日中は暑く、日が暮れると肌寒い気候であったため、ホテルで体調を崩す生徒が多かった。夕食のバイキングを食べ過ぎて腹痛を訴える生徒もいて、健康面の管理の指導も来年度への課題であると感じた。しかし、旅行中に帰宅しなければいけないほど体調を崩す生徒もなく過ごせたのはよかったと思う。

これからの課題として、

旅行経費は四日市市で、2泊3日58000円以内としているが、地域的に見て支払いが厳しい家庭がある。

引率教員の費用が公費から支払えないような状況がある。(ホテル代、入場料等)

旅行代金が高騰し、58000円以内で計画することが段々と厳しくなってきた。

グループ活動等、自主活動が多くなってきているので、生徒の安全確保・確認が難しく、現在叫ばれている教育上の問題点を克服することが難しくなってきた。

本校では入札制を導入して旅行業者を決定しているが、比較するポイントをどうするかが難しい問題である。

等が考えられる。

最後に、「生徒の主体的な活動を通して、仲間づくり、共生の素晴らしさを知り、社会の一員としての自覚を育てる」という大きなテーマを掲げ、修学旅行を通して、少しでも人間性を高めていきたいという私の願いを、全引率教員が共通理解してもらうことで、目標に向かって意義のある活動ができたと思う。

ところで、本年度より、本校は目的地を東京・横浜方面に、生徒・保護者・教師の意見要望により変更した。

理由として、

広島・神戸での平和学習や防災学習等は、東京・横浜でも可能である。

日本の中心である首都圏を見聞することにより、さらに生徒の学習を深めたい。

いろいろな職業を見ることにより、生徒の進路学習の一助としたい。

等が考えられる。

今後も、生徒たち一人ひとりに、社会の一員としての自覚を持たせることができるような修学旅行を企画・検討し、実施していきたいと考えている。